

第二学年桜組 国語科学習指導案

単元 ことば「主語と述語」

【本学級の児童の実態】	【本単元における内容】
<p>○これまでに、文学的な文章の「スイミー」や「お手紙」といった文章の中で、「誰が」「どうした」などの言葉を見付けて、人物の行動や場面の様子を想像することができるようになっている。</p> <p>○そこで、これまでの学習を振り返り、「主語」と「述語」の意味と働きを理解し、主語と述語の係り受けの関係に気付き、自分の伝えたいことを適切に書くことができるようになると考える。</p> <p>○本単元では、主語と述語の意味と働きを知り、自分の伝えたいことを適切に表現しようとする子供の姿を目指し、このことは自ら文章を練り上げる子供を育てる上でも意義深い。</p>	<p>○第1学年の「ことば」の学習で、「は」「へ」「を」を用いて簡単な文を作ったり、誤って用いられている「は」「へ」「を」の言葉を見付け、正しく文を書き直したりする学習をしてきている。</p> <p>○本単元では、「主語」と「述語」のそれぞれの意味と働きについて話し合い、伝えたいことを相手に正しく伝えるためには、文の中の主語と述語をそれぞれに対応させて、意味が通るように組み合わせる必要があることを学習する。</p> <p>○このことは、第3学年の文の構成である修飾語と被修飾語の関係、指示する語句と接続する語句の役割を理解する学習へと発展していく。</p>

【本単元における教材について】

<p>○本単元においては、既習の文学的な文章における登場人物と行動の言葉を教材として取り扱う。</p> <p>○ことば「主語と述語」では、これまでに学習した「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」といった物語の登場人物と行動の言葉を組み合わせ、主語と述語の適切な係り受けについて話し合う。</p> <p>○この教材は、自ら文章を練り上げる子供の姿を目指す上で、伝えたいことを相手に正確に伝えるために、友達と協働しながら文の構成を考え、自分の文章を改善していくことができるという価値がある。</p>

目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 話や文章の中に含まれる文の中で、「誰は(が)、何は(が)」といった主語と、「どうする、どんなだ、なんだ」といった述語の適切な係り受けの関係を理解し、用いることができるようにする。 2 既習の文学的な文章の登場人物と行動や会話の言葉を組み合わせたり、物語の場面や自分の伝えたいことに合うように主語と述語の言葉をつなぎ合せたりして短い文を書くことができるようにする。 3 「主語と述語」の意味や働き、主述の適切な関係を明らかにすることに興味をもち、粘り強く自分の思いや考えを整理したり他者に伝えたりし、思いや考えを生み出す充実感を味わう態度を育てる。

計画 (3時間)

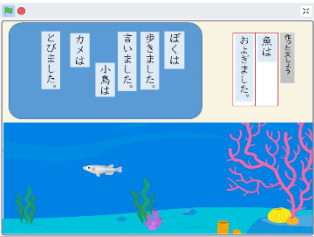
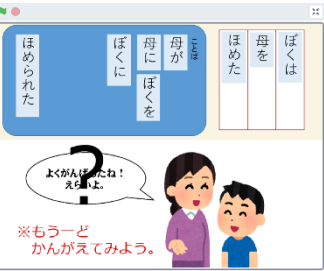
<ol style="list-style-type: none"> 1 既習の物語から複数の例文を整理、分類して主語と述語のそれぞれの意味を捉えさせる。――1 2 イラストの登場人物と行動を示したスクラッチのプログラムを操作して、主語と述語の適切な係り受けの関係を捉えて文をつくらせる。――1本時 3 主語と述語を用いた文をつくって伝えたいことを書き、学習をまとめさせる。――1

本単元で育成する「情報活用能力」

<p>国語科との関連について：活動との関連 【資質・能力の関係】 教科→情報</p> <p>【情報活用能力の重点】</p> <p>A 文章や文を単語や分節に分けて組みかえて意味をつくる大きな事象の分解と組み合わせの体験。</p> <p>B 文や複数の言葉、挿絵から情報の概要を捉え、分解・整理し、自分の言葉で考えをまとめる。</p>
--

<p>【主眼1】</p> <p>「誰が、何が(は)」といった主語と「どうする、どんなだ、なんだ」といった述語の意味と働きを基に、主語と述語が対応し意味が通る係り受けの関係を捉えて、文をつくることができるようにする。</p>	<p>【主眼2】</p> <p>主語と述語が対になって順序よく配置された時に人物のアニメーションが動くスクラッチのプログラムを操作して、主語と述語の適切な関係について、友達と話し合うことができるようにする。</p>
---	---

本時学習過程

段階	学習活動と予想される子供の反応	教師の具体的な支援
導入	<p>1 「主語と述語」のそれぞれの意味を学習ノートで確認し、この2つの言葉をどのように使うとよいのかを明らかにする本時学習のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【主語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰は(が), 何は(が) <p>【述語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうする(行動) ・どんなだ(状態) ・なんだ(事物) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「主語」や「述語」のそれぞれの意味は分かる。 ・2つの言葉を正しく使うことができているかな。 「主語」と「述語」は順番に並べるといいかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主語と述語は、どのように使うとよいのか話し合おう。</p> </div>	<p>○本時学習のめあてをつかませるために、単元導入時のアンケートと学習の進捗状況をまとめた学習の流れ図を提示する。</p>
展開	<p>2 イラストの登場人物と行動を示すプログラムを操作し、主語と述語の関係について気付いたことを話し合う。</p> <p>(1) 登場人物と行動を表す言葉のブロックを組み合わせて、自分の意図した動きを作り、主語と述語の使い方について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語を一対一で組み合わせるとアニメーションが動く。 ・何でも組み合わせるといい、ということではなさそう。 </div> </div> <p>(2) 「ぼくと母」のイラストの場面にあった主語と述語の組み合わせを、スクラッチのプログラムで操作する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「～を」「～に」の言葉があつて分かりにくい。 ・主語と述語が文の中で、ひとつずつ対応し、絵の意味に合うときに正しいアニメーションが動く。 </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>イラストの主語は「母」だから、表す場面の意味に合うように主語と述語を組み合わせることが大切だ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>主語と述語は、文の中でひとつずつ、伝えたいことの意味が合うようにつなぎあわせて使うとよい。</p> </div>	<p>○主語と述語の関係について気付いたことを話し合わせるために、ブロックを組み合わせることでアニメーションが変化するスクラッチのプログラムを提示する。</p> <p>○主語と述語の適切な使い方を話し合わせるために、エラーメッセージが出た理由を話し合わせ、主語と述語の適切な関係について板書で整理する。</p>
終末	<p>3 「主語と述語」の関係について分かったことを振り返り、本時学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主語と述語を使うときは、その場面で何を伝えたいかを考えて、文の意味が分かるようにつなぎ合わせていくことが大切だ。話すときや書くときにも使えるな。</p> </div>	<p>○「主語と述語」の関係について分かったことをまとめさせるために、学習ノートのモデルとなる記述を紹介し価値付ける。</p>

本単元の構成

配時	学習活動と予想される子供の反応	教師の具体的な支援
45	<p>1 既習の物語から複数の例文を整理，分類して主語と述語のそれぞれの意味について話し合う。</p> <p>(1) 「主語と述語」についての二年桜組アンケートの結果を聞き，主語と述語を学習するめあてについて話し合う。</p> <div data-bbox="220 409 975 707" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【「主語と述語」アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を聞いたことはあるけれど，意味はよく覚えていない。 (6人) ・主語か述語か片方だけは知っている。 (3人) ・主語と述語の意味を知っている。 (17人) ・主語と述語の意味と働きを説明できる。 (8人) <p style="text-align: center;">※間違えて認識して回答しているものも含む。</p> </div> <div data-bbox="220 725 975 887" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「主語」と「述語」にはそれぞれどんな意味があったかな。まだ，知らない意味や使い方があるかも。正しく理解して説明したり使ったりできるようになりたいな。</p> </div> <div data-bbox="220 896 975 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「主語と述語」について，自分の言葉で説明したり，使ったりできるようになろう。</p> </div> <p>(2) 既習の物語文の登場人物と行動や状態を表す言葉を整理・分類して，主語と述語のそれぞれの意味を話し合う。</p> <div data-bbox="220 1102 596 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【既習の文学的な文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおきなかぶ」(1年) ・「おむすびころりん」(1年) ・「くじらぐも」(1年) ・「スイミー」(2年) ・「お手紙」(2年) </div> <div data-bbox="616 1102 975 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【登場人物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさん・スイミー ・がまくん ・ねずみ <p style="text-align: center;">【行動や様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひっぱり ・よぶ ・かなしそうだ 等 </div> <div data-bbox="220 1379 975 1563" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「登場人物」と「行動(したこと)」「様子(どのようになっているか)」の2つに分けられる。 ・「何は(が)」「誰は(が)」の言葉が主語で，「どうする，どんなだ，なんだ」の言葉が述語という。 </div> <p>(3) 既習の物語や生活場面を思い出し，主語に当たる言葉と，述語に当たる言葉を紹介し合う。</p> <div data-bbox="220 1653 596 1872" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【主語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まごは，みんなは， スイミーは， 《人物》 ・お手紙は，それは， 鉛筆が， 《物事》 </div> <div data-bbox="616 1653 975 1872" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【述語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く，泳ぐ，走る 言う，話す 《行動》 ・幸せそうだ ある，いる 《様子》 </div> <div data-bbox="220 1890 975 2033" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主語は「誰が(は)」「何が(は)」の意味があり，述語は「どうする(行動)，どんなだ(様子)，なんだ(事物)」の意味があるということが分かった。</p> </div>	<p>○「主語と述語」の言葉について学習するめあてをつかませるために，二年桜組のアンケート結果をプレゼンテーションで提示する。</p> <p>○主語と述語のそれぞれの意味を帰納的に捉えさせるために，登場人物と行動，様子のカードを板書上で整理シラベルをつける。</p> <p>○主語と述語のそれぞれの意味を整理して捉えさせるために，主語に当たる「人物」と「事物」，述語に当たる「行動」「様子」「事物」の観点を板書上で明示する。</p>

45
冊

2 イラストの登場人物と行動を表すブロックを用いたスクラッチのプログラムを操作して、主語と述語の適切な係り受けの関係について話し合う。

(1) 「主語と述語」は、どのように使うとよいのかを明らかにする本時学習のめあてについて話し合う。

【主語】
 ・誰は(が)、何は(が)

【述語】
 ・どうする(行動)
 ・どんなだ(様子)
 ・なんだ(事物)

・「主語」と「述語」の詳しい意味は分かった。
 ・「主語」と「述語」は、順番に並べればいいのかな。
 ・どのように使うとよいかを、はっきりさせたいな。

(2) 「スクラッチ」のプログラムを操作して、主語と述語の関係について気付いたことをメモに書き、話し合う。

【スクラッチのプログラム】
 問題1 主語と述語を選択し、自分の意図した動きを作成
 問題2 イラストの場面に合うような組み合わせを作成

主語と述語は、文の中で2つあると分からなくなる。スクラッチのプログラムを動かすことができない。文の中でひとつずつ、意味が通るように順に並べるとよい。

(3) 「主語と述語」の関係について分かったことを振り返り、本時学習をまとめる。

主語と述語は、文の中でひとつずつ、伝えたいことの意味が通るように合わせて順にならべるとよい。

45

3 主語と述語を用いた文を作って伝えたいことを書き、本単元の学習をまとめる。

(1) 「主語と述語」の関係を踏まえ、伝えたいことが伝わるように文を書く。



・「ぼうしが」の主語だけだと、どうしたのかが分からない。「ひっかかった」の言葉を加えるといい。

伝えたいことが伝わるように、主語と述語のつながりに気を付けて話したり書いたりすることが大切。

(2) 「主語と述語」について学習したことを振り返り、これからの生活や学習に生かせることを話し合う。

自分の伝えたいことを正しく伝えるためには、文の中で、「主語」と「述語」をひとつずつ合わせて、意味が合うようにつなげることが大切だとわかった。これから、学習の発表や生活記録を書くときには、主語と述語の関係に気を付けて自分の思いや考えを伝えていきたい。

○「主語と述語」の関係について学習するめあてをつかませるために、前時の学習でまとめた「主語」と「述語」の流れ図を提示する。

○主語と述語の使い方を話し合わせるために、エラーメッセージが出た理由を話し合わせ、主語と述語の適切な関係について板書で整理する。

○「主語と述語」の関係について分かったことをまとめさせるために、学習ノートのモデルとなる記述を紹介し価値付ける。

○「主語と述語」を正しく用いる本時学習のめあてをつかませるために、主語と述語が照応しない場面の挿絵を提示する。

○これからの生活や学習のことを考えさせるために、今後の学校行事や生活記録、精華文集を書く場面を知らせる。